

第3回高岡市復興会議 議事要旨

開催日時：令和8年10月1日(木) 午後3時～午後4時40分

場 所：議会棟第1委員会室

出席者：復興会議委員 出町会長、米谷副会長、上見委員、大西委員、塩谷委員、高田委員、高畑委員、立野委員、蜂谷委員、八坂委員、山崎委員、山中委員、吉川委員、(13名全員出席)

事務局

都市創造部震災復旧推進課ほか

1 会議での報告事項等（別添資料のとおり）

- ・計画策定スケジュール（資料1）
- ・第2回復興会議以降の取組み（資料2）
- ・復興によりめざすまちの姿（ビジョン）（資料3）
- ・計画で取組む具体的事業（資料4）
- ・その他（市長との対話集会の開催案内）（資料5）

※以上、事務局より資料に沿って説明

2 委員意見の発言要旨（主なもの）

- ・土地利用の方向性について、緩やかに居住を誘導していくというのは妥当である。立地適正化計画や災害リスクを踏まえた考え方とも整合している。一方で、現在住んでいる方が何をしたらよいか不透明なため、3～5年後を想像できるような計画も示す必要がある。
- ・何かを新しく整備する際の、地域への負担は心配。事業を進める上で、地域への負担や課題について、地域と話をしながら進めることが必要。
- ・地域住民も、まちに投資する立場としてもっとまちづくりに関わるべき。例えば、地域で法人を立ち上げて伏木駅から勝興寺までの参道の魅力向上に取り組むなど、若い方にも参画してもらって、仕組みを考えていくべき。
- ・復興に対する考え方に、年代格差や地域内での格差を感じる。伏木の将来像を広く知ってもらう必要があるのではないかと。過去の空き地の利活用意向調査結果でも、土地を手放したい意向の方が多かったが、復興のイメージを速やかに示さなければ、人口流出が進んでしまうのではないかと。
- ・長期的な考えだけでなく、直近の課題への対応策も、もっと打ち出していくべき。
- ・地域の継続性を考えれば、伏木の将来を担う次世代のリーダーの発掘が大切。そのためにも、学生が参画してくれている地域主体の取組みが重要だと思う。
- ・液状化被害が大きかった地域のみではなく、伏木全体を対象としてとらえて、伏木らしさを活かしたまちづくりを考えるべき。将来像も、40年後という設定は住民にとって現実味がないため、もっと短期間で、自分たちの暮らしがどう変わるのかを感じられるように、将来像を示していくべき。

3 次回（第4回復興会議）に向けて

- ・長期的な構想に加え、具体的な事業を明確にしたうえで、計画での取組みを分かりやすく伝えるよう検討を行う。10月30日に市長との対話集会を開催し、その意見も踏まえて、次回の復興会議において計画の素案を提示する。